

2019年2月8日

日本儒教学会会員各位

日本儒教学会

会長 土田健次郎

## 2019年度大会開催のお知らせと研究発表の募集

立春の候 ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、日本儒教学会では、2019年度大会を本年5月12日（日）に早稲田大学戸山キャンパスにて開催いたします。

つきましては、下記の要領で研究発表を募集いたしますので、奮ってご応募ください。

2019年度大会において開催予定のシンポジウムにつきましても、あわせてご案内申し上げます。

### 研究発表募集要領

1. 研究発表テーマ：儒教に関する最新の学術的成果
2. 発表時間：発表20分 質疑応答10分（発表には司会がつきます）
3. 応募締切：2019年3月14日（木）
4. 応募方法：研究発表は、未発表のものに限ります。応募される方は、氏名（フリガナ）・住所・電話番号・Eメールアドレス・所属を明記のうえ、発表の題目と要旨（800字以内）を、Eメールまたは郵送（締切日必着）にて学会事務局までお送りください。大会準備委員会による査読のうえ、発表の可否を決定させていただきます。
5. 応募・お問合せ先：日本儒教学会事務局  
Eメールアドレス [ribenrujiao@yahoo.co.jp](mailto:ribenrujiao@yahoo.co.jp)  
〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1 早稲田大学文学学術院 東洋哲学研究室気付

以上

## 2019 年度大会シンポジウムについて

日本儒教学会 2019 年度大会では、午後に下記のシンポジウムの開催を予定しております。開催時間・場所の詳細が決定いたしましたら、本学会ホームページ等でお知らせいたします。奮ってご参加ください。

### 記

テーマ：儒教の広がり と 多様性 —琉球・ベトナム・満清—

趣 旨：

儒教というと日・中・韓の3カ国を対象として語られることが多い。だが、この他に、かつては日本と別の国家だった琉球、科挙制度を導入していたベトナムなどにも浸透していた。また、清朝においては儒教経典の満洲語訳が作成されて旗人官僚に読まれていた。これらについても検討してはじめて、儒教の複層的な全体像を描くことができるだろう。

本シンポジウムでは、琉球国における儒教の政治的・文化的な意義についての報告、ベトナム諸王朝の儒教的教化と在地社会の関係についての報告、清朝における漢籍古典の満洲語への翻訳と儒教理解の内実についての報告の3つが行われる。空間的広がりのみならず、儒教が具える多様な側面についての議論を共有することによって、東アジア全体の問題としてあらためて捉え返してみたい。

報告者：

- |                 |                          |
|-----------------|--------------------------|
| 中村 春作（広島大学名誉教授） | 「近世琉球と儒教」                |
| 嶋尾 稔（慶應義塾大学教授）  | 「ベトナム阮朝の漢文訓諭と民間におけるその受容」 |
| 渡辺 純成（東京学芸大学助教） | 「清初における満洲語儒教書と「格物」理解」    |

コメンテーター：

- 小島 毅（東京大学教授）

司会者：

- 林 文孝（立教大学教授）

以上